

科目名	高次脳機能障害治療学演習			授業の種類	演習	講師名	
授業回数	15	回	時間数	30	時間	1	単位
				必修・選択		必修	
						配当学年 時期	2年 後期
【授業の目的・ねらい】 作業療法として必要な高次脳機能障害の知識を学び、観察や検査を用いて評価できる技術を身につける							
【実務者経験】 作業療法士として順心リハビリテーション病院に勤務、身体障害領域の幅広いリハビリテーションに従事経験。							
【授業全体の内容の概要】 高次脳機能障害の評価に必要な観察や面接、検査を実技を通して学ぶ							
【授業終了時の達成課題（到達目標）】 高次脳機能障害の知識を深め、評価するための技術を身につけ、高次脳機能障害への評価・介入に役立てることができる							
回数	講義内容						準備物(教材)
1	オリエンテーション、評価の概要						教科書、資料 プロジェクター等
2	脳の機能解剖と画像の見方						教科書、資料 プロジェクター等
3	注意障害						教科書、資料 プロジェクター等
4	注意障害						教科書、資料 プロジェクター等
5	記憶障害						教科書、資料 プロジェクター等
6	失語						教科書、資料 プロジェクター等
7	失語						教科書、資料 プロジェクター等
8	失行						教科書、資料 プロジェクター等
9	失行						教科書、資料 プロジェクター等
10	失認						教科書、資料 プロジェクター等
11	半側空間無視						教科書、資料 プロジェクター等
12	半側空間無視						教科書、資料 プロジェクター等
13	遂行機能障害						教科書、資料 プロジェクター等
14	遂行機能障害						教科書、資料 プロジェクター等
15	社会的行動障害、認知症						教科書、資料 プロジェクター等
定期筆記試験							
【使用教科書・教材・参考書】 標準作業療法学 高次脳機能作業療法学 第2版 能登真一							
【準備学習・時間外学習】 検査の目的や意義を理解し、それぞれの検査が行えるよう復習しておく							
【単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など）】 試験の結果を100点満点として成績を評価する。 試験は課題の評価を40点、定期筆記試験を60点として合計100点とする。 60点以上の場合に科目を認定する。							